

## 真狩村 向井農場の経営概要と麦作り

### 1 市町村の概要

真狩村は北海道西部の後志地方にあり、「えぞ富士」と呼ばれ親しまれている羊蹄山の南麓に位置しています。

主要な作物は、ばれいしょ、だいこん、にんじんなどで、畑作と野菜の複合経営を中心とした農業が盛んです。中でも食用ゆりは、全国一の出荷量を誇っています。



向井翔一さん

### 2 向井農場の経営概要

表1 向井農場の経営概要と輪作体系

家族構成	経営規模		左の内借地面積	輪作体系					輪作の特徴
	水田	畑		平29	平30	令元	令2	令3	
総人員11人 稼働人員3人 (他技能実習生3人、従業員1人)	0.0ha	39.1ha	0.0ha	ばれいしょ	だいこん	てんさい	ながいも ごぼう	春小麦	畑作4品と野菜による4～6年輪作を基本としている。
	合計 39.1ha		0.0ha						

向井農場は経営面積約39ha、真狩村加野地区で麦類（秋まき、春まき）、ばれいしょ、てんさい、野菜類（だいこん、にんじん、ごぼう、ながいも）と多品目を作付けし、畑作・野菜の複合経営を営んでいます。

現在は向井さん家族3名と外国人技能実習生3名、パート従業員1名で農場を運営しています。多くの労働力を確保することで多品目栽培を可能にしています。

表2 向井農場の作付構成

作物名	作付面積 (ha)
春まき小麦	3.40
秋まき小麦	5.05
ばれいしょ	8.30
てんさい	6.52
豆類	3.20
だいこん	5.70
にんじん	2.90
ごぼう	1.80
ながいも	2.20
合計	39.1

### 3 春まき小麦の生産状況

表3 最近3か年の春まき小麦生産状況

年産	小麦品種名	小麦栽培面積 (ha)	麦作率 (%)	10a当たり収量 (kg)		上位等級生産量 (kg)	左の等級別検査数量 (kg)		規格外を含む総収量 (kg)	総収量対1～2等麦比率 (%)
				農家	統情		1等	2等		
令和元年	春よ恋	2.26	5.7	432	354	9,765	9,765	0	11,259	87%
令和2年	春よ恋	3.09	7.9	265	280	8,198	8,198	0	12,516	66%
平均		2.68	7.6	356	317	8,982	8,982	0	11,888	77%
令和3年	春よ恋	3.40	8.7	428	275※	14,568	14,568	0	15,398	95%

※令和3年産の10当たり収量（統情）は、過去7年間の町平均から豊凶2カ年を除いた5カ年平均収量

表4 品質等測定値 (JA ようてい)

容積重 (g/ℓ)	F. N(sec)	蛋白 (%)	灰分 (%)
855	433	11.4	1.56

過去2ヶ年の10a当たり収量は、村平均に対して112%と高くなっています。

令和2年は気象の影響により規格外の割合が例年より高くなりました。地域全体も同様に規格外の割合が例年に比べ高く、収量は低くなりました。令和3年は気象が高温・少雨で経過しましたが村平均に対して155%と高水準を確保しています。

## 4 技術の内容

表5 技術内容

融雪促進		融雪期 (月/日)	は種			土性	施肥 (kg/10a)				
時期 (月/日)	資材・散布量		期 (月/日)	量 (kg/10a)	方法		区分	窒素	リン酸	加里	時期 (月/日)
3/10	土 (100kg/10a)	4/10	4/22	13.0	ドリルは種 畦幅12cm	火山性土	基肥	6.4	20.0	8.0	4/22

除草剤散布		病虫害防除 (植物成長調整剤等)			
時期 (月/日)	剤名・散布量	対象病虫害名	時期 (月/日)	使用薬剤・散布量	
4/22	ガレース乳剤 150ml/10a	茎稈伸長抑制	6/17	カルタイムフロアブル	150ml
		赤かび病	6/28	バラライカ水和剤	500倍
		赤かび病	7/4	ベフトップジンフロアブル	800倍
		赤かび病	7/12	シルバキュアフロアブル	1,000倍
		赤かび病	7/20	チルト乳剤25 (ドローン)	8倍

## 5 技術の特色

### (1) 排水対策の徹底

てんさい、ばれいしょの栽培前年には、心土破碎を委託施工し排水性改善に努めています。ほぼ隔年で実施しており、毎年15ha程度施工しています。その他のほ場は、前年にサブソイラを施工しています。また、面積のおおよそ半分はプラウを秋に施工し、春先の土壌物理性の向上に努めています。

### (2) 融雪促進と耕起

なるべく早期にほ場に入れるように、積雪状況を確認しながら適期に融雪剤(土)を散布しています。散布する土は前年6月にほ場より採集、乾燥させ使用しています。

耕起作業は、ほ場の状態を確認しながら実施するようにし、水分過多の時には無理な耕起は行わないように心がけています。作業は、大型のトラクターによるコンビネーション作業(スタブルカルチとパワーハロー)によりほ場に入る回数を減らし、踏圧軽減と労働時間の削減に努めています。

### (3) 施肥と土壌改良

定期的に土壌診断を行い、分析結果に基づいて施肥量の見直しを行っています。

pHは土壌分析結果から土壌改良資材を施用しています。近年は、ごぼう、ながいも、てんさい作付け前年に150kg/10a、だいこん、にんじんの作付け前年に100kg/10aを目安に粒状苦土生石灰を施用しています。

また、麦稈はすべてほ場に還元しています。ストローチョッパーの施工後に石灰窒素40kg/10aを散布し、ディスクハローではほ場にすき込んでいます。腐熟を促進するために秋までに3～4回すき込んでいます。

堆肥は、てんさいの作付け前年の秋に3,000kg/10aを施用しています。その他のほ場は、ばれいしょ、にんじん、ごぼう、ながいもの作付け前年の秋に豚ふんを200kg/10a施用しています。

### (4) は種

できるだけ早期には種するために前述の排水性の改良に努め、4月中下旬までは種を目標にしています。また、多品目栽培であることを活かし4～6年輪作を実践しています。

## 6 経営上の特徴・工夫など

### (1) 排水対策の徹底

暗渠の整備は徹底されており、さらに前述のとおりてんさい、ばれいしょの栽培前年には心土破碎を委託施工しています。自力施工の心土破碎に比べ施工深も深いことから長年継続して実施されており、ほぼ隔年で施工されています。

### (2) 計画的な土壌改良の取り組み

畑作・野菜の複合経営であり、土壌pHのコントロールが計画的に行われている。このことは、春まき小麦のみならず他作物の収量性も高い水準を維持しています。

〔 執筆者名：後志農業改良普及センター 地域第四係長 真鍋 照彦  
JAようてい 第2ブロック営農推進センター 佐々木章光 〕